

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200366		
法人名	株式会社 日本ケアリンク		
事業所名	せらび小金原公園		
所在地	千葉県松戸市小金原4-38-6		
自己評価作成日	平成31年1月3日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成31年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気のもと自宅にいるような環境を大切に職員がご利用者様と接している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の中で暮らすことを大切にしており、認知症カフェに参加したり、地域の商店に買い物に出かけたり、ホームで開催する夏祭りには地域住民が参加している。身体拘束については、運営規定でも「身体拘束の原則禁止」を定めており、委員会を設置して身体拘束廃止に取り組んでいる。また、ターミナルケアにも取り組んでおり、重要事項説明書に「利用者が重度化した場合に係る指針」として重度化及び看取り介護について記載して説明するとともに「重度化対応指針に係る同意書」も準備している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者を主体とし理念に基づきサービス提供を行っている。	玄関正面に理念を掲げており、全体会議、ユニット会議などでは理念に基づき話し合いをしている。また、新人職員にはオリエンテーションの場で理念を理解してもらうよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域の方との関わりを持っている。	地域掲示板や運営推進会議出席者から地域の情報を得て、活用している。認知症カフェに参加したり、買い物に出かけるなど地域の中で生活することを大切にしており、ホームで開催する夏祭りには地域住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者変更にあたり地域との関わりが行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス利用状況について報告し家族や参加者へ意見を募りサービスに活かしている。	年6回定期的に開催しており、薬剤師に薬の話をしてもらうなど内容に変化を持たせるように工夫している。また、議事録のコピーは家族に送付している。	議事録には開催日時、場所、出席者名などを記載したほうがよいと思われる。また、内容は報告が中心となっているが、意見交換する事で、より会議が活用されると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例などについて地域包括へ相談連絡を行っている。	地域包括支援センターとは密に情報交換をしている。市の担当課には直接出向いたり、電話で相談するなどしている。また、行政が実施する研修にはシフトを融通して職員が参加できるように心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については来客者や小規模多機能のご利用者の出入りが頻回なため施錠させていただいている。ご利用者がごでたいときには都度対応している。	身体拘束については、運営規定でも「身体拘束の原則禁止」を定めており、委員会を設置して身体拘束廃止に取り組んでいる。また、研修を実施して職員の理解を深めるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業内で年間の研修計画に定め虐待防止の研修を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で青年後見人の方にも出席していただき制度についての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容についてただ読むだけでなく家族の視点となり分かりやすい言葉で伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	CSアンケートや会議 面会時にご家族の要望を尋ねるように心がけている。	利用者の意見は居室担当者が聞き取るようにしている。家族については運営推進会議やホーム来訪時に意見を聞くようにしており、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で職員から意見が出しやすいように関り方に注意を払っている。	管理者は職員に積極的に声かけをして、意見を聞くようにしている。職員の提案から、車いすの利用者も含めて全員で外食に行くなど意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回職員と面談し個々の目標達成できるように関りをもっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社や事業所内での研修する機会を設け職員に救えるアップできる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加したり招いたりし事業所間での交流を図っている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がどのように暮らしたいか過ごしたいか十分に聞き取りをした上で安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に十分に意向確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	第一にまず何が必要なのか見極めた上で対応できることはあるか他のサービスも含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員として関わることに意識せず共に暮らす一員としてご利用者に関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族との関係が途切れないように職員はパイプ役を担っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設へ入居しても以前のなじみのある方との関りが途切れないように積極的に面会を受け入れている。	利用者の知り合いなどの来訪を歓迎し、これまでの関係が継続できるような支援に努めている。また、地域の商店街の人や訪問美容の人とも馴染みの関係となるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ユニットだけでなく他のフロアや小規模多機能のご利用者とのこと交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの暮らしを大切にフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	第一に本人の意向を重要視しケアプラン作成を行っている。	居室担当職員が中心となって普段の会話の中から本人の思いや希望を聞き取るように努め、職員間で情報を共有している。場合によっては生活歴から察したり、家族に情報をもらうこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方を把握し本人の視点に立ったサービス支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況や残存機能をアセスメントし自立支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議などで本人、家族、職員など多職種で検討しケアプラン作りを行っている。	利用者、家族などの意向を踏まえ、サービス担当者会議などで多職種で検討して介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化など申し送りノートや日誌等で把握しサービスに活かしケアプラン作りの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	フォーマル支援だけでなくインフォーマル等のサービスも取り入れた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を拾い切れていない協働で行えていない。安全に配慮した支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の必要性について必要時都度家族へ連絡を行っている。家族が同行できない場合は職員が対応している。	月2回の協力医の往診や週2回の看護師の訪問、週1回の訪問歯科により健康管理をしている。これまでのかかりつけ医受診は家族に対応を依頼しているが、場合によっては職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や訪問看護ではご利用者の気づいた点や変化は都度伝えて適切に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際でも早期に退院できるようにソーシャルワーカーとの関係を密にし連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について本人 家族と契約時などで話し合い事業所として出来ること明確にしている。	重要事項説明書に「利用者が重度化した場合に係る指針」として重度化及び看取り介護について記載しており、入居時に説明している。別途「重度化対応指針に係る同意書」も準備しており、家族などの同意を得たうえで進める体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間で研修計画に定め実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をご利用者を交え実践している。	年2回、消防署立ち合いで避難訓練を実施しており、うち1回は夜間を想定している。また、水や食料3日分の備蓄や発電機も準備している。	夜間想定訓練については、夜勤専門職員には伝達のみだが、実際に訓練に参加してもらうことも検討が期待される。また、火災以外の災害について考えたり、地域の協力体制構築も期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への声掛けや記録物など個人情報に注意している。	プライバシーについては研修を実施しており、入室の際には必ずノックをする、失禁があった場合にはさりげなく対応するなど気遣いができるようなケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご利用者の発する言葉に耳を傾け自己決定できる場面を多く作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合ではなくご利用者の都合を優先し個々の生活ペースにあった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など職員が選ぶのではなくご利用者に選択できるように自己決定を重要視している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が自身で食べれるように大きさなどに注意しながら支援している。また食事の準備も一緒にできるように関わりを持っている。	食事は楽しみの一つであり、ホームでも大切にしていく。献立は食材業者が作成しているが、調理はホームで行い、盛り付け、配膳、下膳や食器洗いなど利用者にしてできる事で参加してもらっている。時には利用者のリクエストに応じて献立を変更するなど、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を元にバランスの取れた食事を提供している。一日の水分摂取量を把握し脱水にならないように注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を取り入れたり毎食後、口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が出来るように適時トイレ誘導を行っている。排泄感覚を把握し失敗が無いようにトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表に基づいて声かけしている。夜間は状況に応じておむつやリハビリパンツを使用するなど安眠を妨げないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬を使用せずに自然排便できるように水分摂取や植物繊維のある食べ物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長湯になるとのぼせてしまう事があるのである程度時間を決めて安全に配慮し入浴を楽しんでいただいている。	週2回の入浴を基本とし、安全に配慮しながら、できる限り利用者の希望に沿えるように努めている。入浴したくないという利用者には無理強いをせずに、時間や曜日を変えて支援するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もお部屋で休めるように静養の時間を設けている。精神安定剤など極力使用せず睡眠環境を大事に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性を理解し個々がどの様な薬を服用し副作用があるか理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を紐解き嗜好品など楽しみの有る生活が送れる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望通り外出はなかなか出来ないが極力外出できるように時間や日を改めて対応している。	職員の提案により、勤務体制を変更して、全員で回らずしに出かけ、大変喜ばれた。また、近隣の公園に散歩に出かけるなど、できる限り外に出られるよう努めている。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は立替でご利用者に支払いを社会との繋がりを持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から連絡が来た際は本人へ電話を回す対応をし繋がりが持てるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように飾りものなどに気をつけて一緒にレクリエーションで作成している。	季節感のある飾りや利用者の作品などを掲示した共用空間は清掃が行き届き、温度や湿度も適切に管理しており、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席に配慮し席順を決めている。また都度席順については検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は自宅をご利用者が使い慣れたものを持ち込んでいただくようにしている。極力自宅での環境に近くなるようにレイアウトなどに留意している。	居室の入り口には手作りの表札がかかっている。居室にはそれぞれ自宅から持ってきた家具や家族の写真などを飾って、その人らしい居室となっており、居心地がよさそうである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が自由にフロア内歩けるように障害物を置かないように気を付けている。		